

# 1. 調査報告概要表

作成日 平成19年 5月24日

## 【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入)
法人名	株式会社プラス
事業所名	グループホームあかり岐阜苑
所在地 (電話番号)	岐阜市大洞1丁目3-4 (電話) 058-241-2200
評価機関名	NPO法人ぎふ住民福祉研究会
所在地	羽島市竹鼻町狐穴719-1
訪問調査日	平成19年4月20日

## 【情報提供票より】(平成19年 5月 24日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 7 月 1 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	14 人
利用定員数計	18 人
常勤	10人, 非常勤 4人, 常勤換算 5.4

### (2) 建物概要

建物形態	併設/ <del>単独</del>	<del>新築</del> /改築
建物構造	鉄骨造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	300 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	2 名	要介護2	8 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 77.5 歳	最低	58 歳	最高	87 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	みどり病院 たなかクリニック 竹内クリニック
---------	------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

代表者は地域密着型サービスの役割をよく理解し、「これまでのホーム実績と経験を活かし、その人がその人らしく地域で暮らし続けていける支援をしていきたい」と熱く語っている。居室は洋間で7畳と広く、生活品の持ち込みも多く趣味や毎日の出番があり、入居者は個々の生活を楽しんでいる。職員にも看護師はいるが、終末ケアの方がおられるため病院からの訪問看護師が来苑され、24時間安心して生活できるようになっている。近所の人たちが散歩の途中立ち寄られ、一緒にお茶を飲み楽しい語らいの場となっているため、前の通りは交通量も多いが、玄関・フロアの入り口は施錠していない。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果を踏まえ、改善計画シートを作成し、職員全員に伝え改善に取り組んでいる。事故防止のための会議を開き「ヒヤリはっ」と作成した。記録した内容について話し合うこととした。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者はサービス評価の意義と目的を伝え、全職員の意見を聞いて自己評価を実施した。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では地域密着型サービスについて事業所の活動をわかりやすく説明し、助言や意見を求めている。その結果、メンバーやその知人からボランティア等の申し込みがあり、また自治会へ入会した。様々な立場の方からの意見と協力が得られ、地域の人たちとの交流ができてきた。今後は、市町村担当者とともに課題の解決を図っていく取り組みが期待される。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	月1回暮らしぶりや健康状態、金銭出納の報告をし、連絡事項を伝えている。面会時や行事参加の折、個々に意見を聞いている。出された意見はミーティング等で話し合い、サービスに反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	老人の日や成人の日には自治会よりケーキを届けてもらったり、また地域のふるさと祭りにも参加させてもらったりなど地域との楽しい交流がある。年2回のホーム便りも地域に届けている。

## 2. 調査報告書

(    部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でふれあいや情報交換の場を作り、その人がその人らしく地域の一員として生活できるよう事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、事務所、休憩室に掲示し、職員一人ひとりのエプロンにも書き入れ、管理者と職員で理念を共有しミーティングでも話し合い、理念の実践に向けた取り組みがなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	敬老の日、成人の日には自治会よりケーキを届けてもらったり、地区のふるさと祭りにも参加させてもらうなど、地域との楽しい交流がある。年2回のホーム便りも地域に届けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者はサービス評価の意義や目的を伝え、全職員の意見を聞いて自己評価を実施した。外部評価の結果を踏まえ改善計画シートを作成し改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域密着型サービスについて事業所の活動をわかりやすく説明し、メンバー各自に助言や意見を求めたところ、メンバーやその知人からボランティア等の申し込みや自治会への入会の誘いがあり、入会した。		今後はさらに運営会議で、事業所の取り組み内容や具体的な改善課題を話し合い、地域の理解や支援を得るための取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議以外にも、生活福祉室・介護保険室の担当者とも、電話や訪問時に相談し指導を受けて、質の向上に向けて共に取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>職員の移動に関する報告はしていないが、月1回暮らしぶりや健康状態、金銭出納の報告をご家族に対して行っている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会はないが、面会や行事等の出席時、個々に意見を聞いている。出された意見はミーティング等で話し合い、サービスに反映させている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員は地域の人がほとんどで、各ユニットの職員はなるべく固定化し、顔馴染みの職員によるケアを心がけている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>限られた職員体制の中で実務に支障を来たさないよう、計画を立て研修の機会を作っている。報告会等順番に参加し、専門職によるトレーニングを受けている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>推進会議以来他のホームの見学やメンバーの個人的紹介で相互交流が図れるようになった。事業所同士、協働しながらサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して納得の上でサービスを受けられるよう事前面談で話し合い、本人の希望に沿ったものとなっている。一人暮らしの方の入所時には、その人と関わりのあった方に来苑してもらい話を聞いた。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「利用者さんは人生の先輩であり師匠である」という考えを職員は共有している。食事やおやつなどを教えてもらう場面が多く、支援される側・する側という意識はなく、共有しながら和やかな生活ができるような場面作りや声かけをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声かけし、言葉や表情などから真意を推測し、それとなく確認している。意思疎通の困難な方についてはご家族や関わりの合った方から情報を得ている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメント収集を行い、本人、ご家族、職員の意見を出し合い、利用者の視点に立って介護計画を作成している。地域でその人がその人らしく暮らし続けるための必要な支援を盛り込んだ個別の介護計画となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3ヶ月に1回介護計画の見直しを行っている。状態の変化が見られる時は、その時点で現状に即した計画の見直しを主治医、ご家族、職員等で行い、新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、ご家族の要望、状況に応じ、買い物、床屋、散歩等職員が支援している。散歩は天候、体調を見ながら毎日行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回のかかりつけ医の往診がある。必要時は利用者の希望するかかりつけ医の受診も職員が支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末ケアの延命治療についてご家族、医師、看護師、ホームとで話し合い、決定した上で、連携を持ちながら対応している。ホーム長の考えとして環境の変化によるダメージを最小限とし、家庭的環境を保つよう取り組んでいる。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	スタッフ会議や申し送り等で話し合い、一人ひとりに対し尊厳を尊重しながら接している。また声かけに注意し、プライバシー保護に留意している。個人情報についてはご家族に同意を得るようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の流れはあるが、一人ひとりの体調、気分に合わせて、本人の希望を尊重しながら、その日その時の過ごし方を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りをモットーとし、利用者の嗜好を取り入れながら、献立を作成している。調理、盛り付け、片付けなど、できる範囲でともに行い、利用者と職員は一緒に楽しく食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3～4回利用者の希望により入浴を楽しめるよう計画している。血流障害や水虫の人は毎日足浴をして気分爽快にしている。入浴拒否のある人には無理強いをしない。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人ひとりの力が発揮できるように、人生の先輩に教えてもらうという姿勢で頼み、感謝の言葉を伝えている。調理、縫い物、野菜作りなど利用者の生きがいや喜びとなるよう支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	早朝の散歩は、天気・体調を見てできる限り毎日行っている。地域の方とのふれあいも楽しみとなっている。買い物は週3回、本屋・床屋等一人ひとりの希望に沿って外出支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	表通りの交通量が激しいため、安全に配慮し、玄関、フロア入り口にチャイムをつけている。ホーム長の意向により、ご家族の方が立ち寄れるよう、夜10時まで玄関の鍵はかけないでいる。危険な場合はご家族の了解を得て対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年12月防災訓練を実施、今年も計画している。自治会に加入、地域の協力も得られている。マニュアルも完備しており、職員全員が避難経路、災害時における対応を把握している。		消防署の協力、地域の協力も得られているが、更に警察等その他の機関にも協力を求めるなどの働きかけに取り組まれることが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の嗜好を取り入れながら、旬の物を使い、栄養バランスを考えて献立を作成している。1日を通じての水分摂取量は、チェック表に記録し、把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂は眺めもよく、広く、ゆったりとしている。周りにはソファが設置され、テレビの前には仲間であつろげるようテーブルがあり、腰掛けて座れるよう工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の好みや馴染みの物が置かれ、自分の居室として落ち着ける場所となっている。仏壇を置いている人も数名あった。		